

少人数学校の課題

- 交友関係が限定される
- 学級比較ができない 切磋琢磨ができない
良い学級を知らない
- 小中のギャップ
- 児童どうしの関係が崩れた時に行き詰まる
- 男女比 バランスに偏りがある
- 新しい価値観が生まれない
- 児童の固定観念（得手不得手）
- 問題行動が起きた時、周りへの影響が大きい
- 経費（バス代など）がかかり、遠足の内容を変更せざるを得ないことがある
- クラス替えがない 担任も同じ 関係の固定
- 6 年間固定された人間関係 学習意欲に影響
- 諸経費 一人当たり高くなる
- PTA 活動のメンバーが固定化 2 年に 1 回役が 回ってくる
- 児童の人間関係 経験の少ない教員 指導に困る
- 教職員の数が少ないため、一人当たりの校務分掌の負担が大きい 宿泊行事なども一人何役も こなさないといけない
- 委員会やクラブの数が少ない
- 合奏や合唱など子どもの活動が制約される
- 複数学級があれば、教員同士で情報交換し、よりよくできることができない。
- 地域行事への参加が限定的
- 学校施設 維持費 一人当たりが高くなる

児童生徒数の減少に伴う問題

- 教職員への依存が大きい 子どもとの距離が近い
- 学校行事 種類限られ学校の活性化がはかりにくい
- 学習や進路選択の際のモデルケースが少ない
- 部活動の選択肢が限られる 人数が少ないと活動できるクラブが限られてくる
- 人間関係の固定化
- 小集団から大集団になると戸惑う 中→高

適応が難しい

- 思春期は多くの人間と関わる方がよいのでは
- 諸経費 一人当たりの単価が高くなる
- 学年行事を教職員一人で回さないといけない
経験の少ない先生が苦勞する
- 教員定数 小規模校は当然少なくなるため、教員一人に対する仕事量がかなり多くなる
- 後期課程だけでは各教科の先生の数が揃えられない
- 部活動 教員が少ないので、指導者の確保が難しい 専門性のある教員に限られる
- 保健体育 男女共習で実施
男女に分けると10人程度となるためできることが限られるため、やもなく共習しているところがある
- 保護者や地域についての課題は小学校と同じ

学校維持のランニングコスト

- 児童生徒数減少によってランニングコストは大きく変わらないので、少人数になるほど一人当たりの費用は高くなる

小規模校の良い点

- 先生方とのコミュニケーションが図りやすい
経験の少ない教員にとってありがたい
目が行き届く
- 教室を管理職が日に何回も回ることができる
子ども・保護者の顔と名前が一致
- 学習面 一人一人が活躍できる場が多い
- 使用できる教室がたくさんある
- 一人一人に寄り添った指導ができる
- 異学年交流で活動の幅を広げることができる

保護者の視点より

- 小規模・大規模どちらにしても学びを変えては いけない
- 部活動 希望するクラブがない
- 非認知能力 身に付けていけないといけない
環境が変わっても対応できる力をつける

○教職員の数 国・府・市で変えていけたら

○プールの改修 劣化は起こる

施設の老朽化等問題もあるが、昔と同じ学習環境を整えてほしい

○幼稚園から小学校にあがるときのギャップ

少ないからよいというわけではない

○人数が少ないからこそできることもある

○幼稚園と小学校の交流の機会を増やしては

○部活動の選択肢が少ないのが気になる

何かの部に入ることになると思うが、選択肢がない

○子どもが楽しく通っているのが一番

○高校も少子化の影響 定員割れで教職員数が減る 職員室に人がいない

○クラス数減ることで課題のある生徒の逃げる場所がなくなる

○選択肢があっても、部活動の子どもの数が少なくて成立しない 試合ができない

○選択科目 たくさんの教科を準備できない

○芸術関係の科目 7クラスあれば音美書工が開設できる

○ある程度数があって、いろいろできることもある

○部活動の指導 希望する大学生もいる

人材バンクを立ち上げて学校に入れないか

安全上の問題・責任はどうするか

○学生の学校ボランティア

○チーム学校 学校に SSW SC などいろいろな人が関わっている

○社会全体で子どもを支える流れをつくる

○これまでとは違うつながりが増えている。

つながり方を見つめなおし、子どもを真ん中に

据えてどう支えていくか。

○効率的な施設配置 都市計画の考えから

低コストで最大のサービス データで計算

○子どものことを一番に考えるなど課題に対して

データで考えること必要

○どういう形が理想かを共通認識

○学校で抱えるべき問題とそうでない問題

最適な役割分担が必要

○子どものことを一番に施設配置など考える

○数字で見るといろいろな課題が事実として見えてくる すべてを真に受けてはいはいけ

ないが、それを踏まえて変わらない教育環境をどう提供していくか考えていかないと
いけない

○少人数の学校のメリットにも目をむける必要が ある

○児童数の維持をしていくには、教育委員会だけではなく、市として子ども政策を考えてい
かないといけない

○お金のことで子どもが振り回されてはいけない

○小学校区は地域・まちをつくっていく最小単位

○元々小学校があった地域のコミュニティをどう 維持していくか

○小学校の歴史・地域への愛着を踏まえて改革

○今後どうしていきたいかのビジョンの共通認識 を持つておくことが大事

○学校間の広域連携はできないのか

○マンパワーへ支援 民間の力借りていいのでは

○プールの問題 スポーツ施設、民間施設の利用

事務局へ来年度に向けて

○西と東のちがい 同じ市域でも状況が異なるの で分けて考える

○児童数の変化 今後さらに減少が見込まれるの
で将来を見据えた議論をしていく

予想された数字を見ながら考える

○小学校の設立年数・歴史・地域性のふりかえり